

平成29年度大阪府立伯太高等学校学校協議会第2回議事録

平成28年11月18日(土)10:00～12:00

協議会委員参加者

木村 朋子 (PTA会長・協議会会長)

山野 正広 (和泉市総務部人権・男女参画室長兼人権国際担当課長)

松井 昭浩 (和泉市立和泉中学校長)

田中 恒子 (地域教育相談員)

- 1 会長挨拶
- 2 生徒・学校の状況
 - (1) 3年生の進路状況
 - (2) 総合学科1期生についての報告
 - (3) その他
- 3 平成29年度学校経営計画の進捗状況
- 4 本校の広報活動について
 - (1) 本校でのオープンスクール
 - (2) 学校外での説明
 - (3) その他
- 5 本校の教育活動に関する意見交換
- 6 校長謝辞

※その後、オープンスクールに参加する中学生の活動状況を視察した。

[主な質問、意見等]

○は質問、 →は答え、 ●は意見や感想

- 高等学校のオープンスクールの案内・申込について、私立高校はHPを中心に、公立学校は従来型(中学校を通じて申し込み)が多い。中学校側から見れば、今の時期、進路担当の教員は忙しいのでHPで申し込みができるとよい。しかし、従来型の場合、参加する生徒が把握できるという利点もある。
- 中学校ではこの時期、保護者懇談が多い。今は私立高校のオープンスクールに行く生徒が多い。この段階で公立学校のオープンスクールに行く子どもは、すでに目標の私立高校を決定した余裕のある生徒。
- 生徒によって意識が違う。早くから考える生徒は、夏頃からオープンスクールに通

う。どの時期に意識を高めるかが問題。1月、2月で真剣に考える生徒もいる。

- 今の時期は私立高校のことで頭がいっぱいではないか。公立高校は年を明けてから考える。
- 私立高校の合格を条件として、公立高校を決定する生徒が多い。合格、不合格で公立高校の決定が変わる。
- 私立高校の志望を尋ねると「家から近いから。」と回答する生徒が大半。メインは公立高校と決めている生徒が多い。その前に私立高校を合格することが必要。
- 今日のオープンスクールの参加者の数はどのくらいか。
 - 今日は100名ほどが集まっている。
- 伯太高校のオープンスクールを視察すると、親子で参加している家庭もあった。伯太高校出身のボクシングIBF世界ミニマム級王者、京口紘人選手のことをPRしてはどうか。
 - 京口選手には連絡を取り、2学期の始業式に生徒に京口選手の話をした。
- 1年生の進路フェスタは、どのようなものか。
 - 50分を2コマ。2講座を選択。
- オープンスクールは在校生が手伝っているのか。
 - 生徒会の役員が手伝っている。
今回、生徒会役員への立候補者が多い。要因として、伯太祭を生徒がスタッフとして最初から携わった経緯がある。生徒の自主性が芽生え、生徒会に興味を持つ子どもが増えたと考えられる。
- どのようにして生徒会役員を選ぶのか。
 - 生徒会に立候補した生徒なので、何らかの活動ができる形にしたい。執行委員と実行委員に分けるなどすべての生徒に役割を持たせたい。
- 生徒に自主性が出て来た。先ほど見学した商業の教員のように生徒の良いところを見つけ、褒めてあげるのが重要だと思う。とにかく褒めてあげることが重要。褒めることで少しずつ変えていく。
- 修学旅行について、来年度はどのような形で実施するのか。
 - 1年生(40期生)の修学旅行の行先は沖縄の離島、宮古島。3泊4日で今年より1泊増える。民泊2日とホテル1泊。来年12月3日~6日を予定。11月で気温29度、水温24度。
 - 来年度の修学旅行から1泊増やし、3泊4日に決定した。過去の状況を調査するとともに、生徒達から「他の学校と比較して、3泊になぜ増やせないのか」との意見も踏まえ、決定した。
- 和泉市の中学校の修学旅行は沖縄本島。中学校でも民泊が増えている。北海道は行かない。沖縄が多い。
- 経済的に困難な家庭は修学旅行に行けない場合がある。本人は行きたいが、親の都合で行けない場合も有る。

- 伯太高校としては生徒が学校に向いてくれる仕掛けづくりを考えている。伯太高校は地域の住民が和泉市に高等学校が欲しいとの意見で設立され、40周年を迎えた。今後ともどのように生徒を地域に送り出すのかを考え、生徒の学力向上、就職や進学などの進路に向け努力したい。